

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学政治学研究科法曹養成専攻

参加プログラム: Legal Aspects of European Integration 派遣先大学: Cologne University

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 **2.専門職(医師・法曹・会計士等)** 3.公務員 4.非営利団体  
5.民間企業(業界: ) 6.起業 7.その他( )

派遣先大学の概要

ケルン大学は EU の中心部に位置し、1388 年に創立された歴史のある大学です。またドイツ連邦国内で最大の学生数を誇るマンモス校でもあります。昨年からはスタートした International Summer School は毎年 7 月～9 月頃に隔年異なる分野を対象として開催されるそうです。

参加した動機

今までなんとなく漠然と国際系のものに苦手意識をもっていました。しかし、今後自分の将来を考えるにあたって、英語は必要不可欠であると痛感したので、少しでも国際的な経験を積み、苦手意識を克服したいと思い参加しました。加えて、このプログラムは英語を学ぶことを目的とするのではなく、私の専門である法律について学ぶことができたので、非常に魅力的でした。

参加の準備

- ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)特にしていません。

手続き関係ではとりたてて問題になることはありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

ケルン大学側が指定した保険に加入しました。また、プログラム開始前にヨーロッパ旅行をしたのですが、その間はクレジットカード付帯の保険を利用しました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

私は英語で授業を受けた経験がなかったため、授業についていくのが大変でした。とにかく、法律の専門用語を英語で理解するのに非常に苦労しました。専門用語の英語の語彙は難しいので、事前にそうした語彙に慣れておけば少しは授業についていきやすかったと思います。これから同様のプログラムに参加される方は、事前に関係すると思われる分野の本を英語で読んでおくことをおすすめします。また、英語で長時間の授業を受けるのはかなり集中力があるので、インターネットにあがっている長時間の英語授業を基に勉強をし、慣れておけばよかったと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

プログラムの柱は、3つありました。レクチャー形式、5人ずつのチームで取り組むプロジェクトワーク、European Court of Human Rights 等の専門機関への Excursion です。レクチャー形式については、基本的に予習は不要で東大の法学部と同じような教授が一方向的に教える形のものでした。しかし、生徒が積極的に質問や議論に参加していたため、双方向に近い形で、非常に刺激的でした。プロジェクトワークについては、私のグループは5人で家族法について取り組みました。英語力が不十分であったため、レポートをまとめプレゼンをするには非常に苦労しました。Excursion では、European Court of Human Rights でケースを傍聴する等、貴重な経験をさせて頂きました。

③語学面での苦労・アドバイス等

私は英語が不得意だったので、語学では本当に苦労しました。留学生の話が聞き取れなかったり、話が通じないことが多々ありましたが、へこたれずにコミュニケーションを積極的にとるようにして、なんとかなりました。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学が大学近くのホステルをとってくださったので、そこに宿泊しました。ポーランド人の留学生と2人部屋で、毎日一緒に過ごしたのでプログラムの終わりにはかなり仲良くなりました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ドイツのケルンは、治安はかなりよくそこまで危ない目にはあいませんでした。しかし、スリなどの犯罪は多いと聞いて

いたため、財布等の貴重品の管理には十分気をつけていました。いくら治安がよいとはいえ、深夜の一人歩きはできるだけ避けるようにしていました。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)  
日本学生支援機構から8万円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)  
ドイツはビールが水より安いので、毎日飲みにでかけました。授業ではなかなか発言できなかったのが、飲み会でより仲良くなりました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生のサポートのため、国際センターのスタッフと学生のスタッフが困ったときにはすぐに相談に乗ってくれました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

このプログラムでは16カ国から25人の学生とともに、EUにおける法律問題を多角的に学びました。私にとっては、初めての国際的な経験で、授業や食事、飲み会、すべての活動が新鮮で、驚きの連続でした。自分の人生観が大きく変わったので、本当に参加してよかったと思います。

また、英語が思い通りに伝わらなかったことが多々あったので、今後、英語を上達させていきたいと思っています。

その他

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。